お茶と観光

観光における茶文化の商品化

和歌山大学国際観光学研究センター　カウクルアムアン　アムナー
翻訳／和歌山大学観光学部　竹鼻　圭子

7章　茶とヘルスツーリズム―中国、韓国、日本の世界農業遺産のケース

1　序論

ヘリテージ・ツーリズムの重要性は、茶の資産や食品のジェントリフィケーションを通しての茶文化の保存や地域活性化の方策であるというだけではない。「エコツーリズム」の形での環境保護活動支援にも関係していて、サステナブル・ツーリズムの運用のイメージに重なり合っている。したがって、観光における茶文化の商品化は、環境と生物多様性の保護と、伝統茶農法の保存を内包する。エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムの双方を目指している世界の茶農園の例は、世界農業遺産（ＧＩＡＨＳ）指定地域に見ることができ、最近では4か所の茶栽培地域が登録された。2か所は中国にあって、雲南省の「プーアル茶伝統農法」と福建省福州市の「ジャスミン茶文化農法」である。韓国には花開面地域の「河東伝統農法」があり、日本には静岡県掛川周辺の「茶草場農法」がある。これらは比較的新しく登録されたが、観光が世界農業遺産登録の主な焦点なのではない。世界農業遺産の上記4か所の考え方や経験則は、ヘリテージ・ツーリズムでの茶の商品化に環境保護がいかに重要であるかを示している。

2　世界農業遺産の茶伝統農法による環境保護

第2章で述べたように、茶の起源は、中国の南西地域と隣接する東南アジア地域であるとされている。したがってこの地域でアッサム茶（カメリア・シネンシス・アッサミカ種）として知られる原種が生まれ、他に中国茶（カメリア・シネンシス・シネンシス種）がある。この2種が商品化され、世界中に広がった。しかし、この地域で世界農業遺産に登録された例はほとんどなく、茶伝統農法の地域の知識が保持されてこなかったからである。この点が国連食糧農業機関（ＦＡＯ）による茶産地の世界農業遺産指定の問題点であって、ＧＩＡＨＳは伝統農法を世界遺産にブランド化する名称なのである。

茶の農法だけでなく様々な農法が世界農業遺産に登録されていて、農業や周辺の野生生物の生物多様性が豊かであり、その地方特有の文化や知識の主要な資源となり、美しい景観を生み出している。世界農業遺産に登録される農法は5項目の要件を満たす必要がある。すなわち、1）食品と生命の安全性、2）農業生物多様性、3）地域の伝統的知識の体系、4）文化、価値体系、社会組織、5）優れた陸海の景観、である。2018年7月時点で21か国52か所が登録されている。このうち、4か所が茶の伝統農法地域で、その中の2か所が森林農法であり、中国雲南省のプーアル茶伝統農法と韓国花開面の河東農法である。他の2か所は野外の茶畑傾斜地の景観であり、中国福建省福州市のジャスミン茶文化農法と静岡県掛川周辺の伝統茶草場農法である（図1）。

中国雲南省の「プーアル茶伝統農法」　中国福建省福州市の「ジャスミン茶文化農法」
韓国花開面地域の「河東伝統農法」　日本静岡県掛川周辺の「茶草場農法」

図1　世界農業遺産の伝統的茶畑の生態系景観の特徴
http://www.fao.org/giahs/giahsaroundtheworld/designated-sites/asia-and-the-pacific/en/から筆者作成。

雲南の森林農法の環境は三層に分けられ、茶の層、茶の木と低木の層、そしてハーブの層である。茶の層は背の高い多年草が生えている。茶の木と低木の層では野生の茶と共に商品作物を栽培している。ハーブの層は農法の最下層で、穀物や野菜が栽培されている。森林農法では、茶は各層にランダムに寄生植物やキノコと共に自然に生育していて、茶農園には家畜もいる。この農法は自然の害虫などを抑制して、農地の効率を高めるだけでなく、茶の品質も向上させる。雲南省の少数民族は、他の種類の木を植えて茶農園を運用する地域特有の知識を持っている。例えば、ダイ族は野生の茶葉と楠を混合して植えることで、茶の害虫を抑制し、水を確保し、土を肥やして

いる。環境農法の豊かさが手作りのプーアル茶の高い品質と香りを支えている。

韓国花開面の河東伝統農法は、自然に優しい農法で、秋に近隣の楢林で作られる伝統の堆肥で土壌と茶の木を管理し、茶の木の下部の下草を切らずに覆うことで害虫から茶葉を守っている。何種類もの果樹（栗、杏、など）や森の植物が茶園内に植えられ、日光を調整し、岩肌の傾斜の土壌を肥沃に保全しており、このような試みによって、一つの茶園で数種類の味の茶葉を生むことができる。この農法では挿し木ではなく、種によって繁殖していて、殺虫剤や化学肥料は使用していない。また、茶の栽培、管理、収穫、加工は機械ではなく手で行われている。

中国福建省福州市のジャスミン茶文化農法は、河川敷の湿地のジャスミン畑と高地の茶農園を連携した農法である。ジャスミンは河川敷や洲に植えられて、良好な生息地と豊かな食料を鳥や動物にもたらしている。キノコ栽培で使用済みの堆肥に植えられることもあり、土壌を軟化させ、浸透性と保水性を増す。ジャスミンはまた果樹（龍眼、オリーブ、柑橘類、マグノリアなど）と交えて植えられ、生物量や生息数を増して、土壌の劣化を防ぐ。一方で、海抜60～1000メートルの斜面や山地に植えられた茶樹は、益虫の巣になり、豊かな生物多様性の生態系を形成する。茶樹は段丘に植えられているが、地表の水の流れる速度を落として、浸透性を増し、斜面の地表土壌流出を減少させ、土壌を水が削り取るのを軽減しており、土壌と水の保全に寄与している。ジャスミンと茶はブレンドされてジャスミンティーになるが、古代からの香りづけの技術は類を見ない特殊なものである。ジャスミンと茶樹の農法を保護することは、中国茶文化と伝統知識を保護し伝承する上で重要である。

静岡県掛川周辺の伝統的な茶と草の総合農法では「茶草場農法」を用い、農業生産と生物多様性が支えあい、価値を高めあう珍しい例である。しかし、現代の農法が広まるにつれて、この農法は日本から消えつつある。静岡の茶畑には草地が点在し、「茶草場」と呼ばれる半自然の草地として、茶の栽培にために草が保存されているのだが、この農法は国内で1%しか残っていない。茶畑に

図2　静岡の茶草場農法

広がるススキや笹などの草を切って、束ねて乾燥し、秋から冬にかけて溝に広げられる（図2）。この伝統的な方法は、肥料の効率を上げ、草をコントロールし、土壌の保水力を保ち、肥料の流出を防ぎ、茶樹を元気にして、茶の香りをよくする。茶草場はまた、300種もの野生の動植物を保護していて、特に絶滅危機にある笹百合や桔梗を保護している。

3　エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムを茶文化の商品化で繋ぐ

世界農業遺産での伝統的茶栽培農法による生態系の保護が、最近のエコツーリズム体験のトレンドを生み出している。世界農業遺産でのエコツーリズムは伝統的茶産地のコミュニティーに関与する観光形態と定義でき、各コミュニティーは自然と文化の環境を保護し、地域の住民の住環境を維持し、地域のコミュニティーと観光客の環境教育に対する関心を高める努力をしている。したがって、世界農業遺産での茶文化の商品化は、エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムを連携して、環境と生物多様性の保護や茶の伝統農法の保全がもたらす利点を活用することになる。

中国雲南省のプーアル茶生産地域は、茶の農法として2012年に初めて世界農業遺産に登録されたが、エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムを、ハニ族、イ族、ラフ族、ワ族、ダイ族など少数民族の豊かな文化多様性に認めることができ、中国のプーアル茶文化の重要な構成素になっている。それぞれの少数民族が特有の茶文化を創り出していて、茶の儀式、茶の芸術、茶の礼儀、茶の医術、茶の歌、茶の踊り、茶の料理などである。少数民族はまた独特の茶の製法や飲み方を持っていて、ダイ族の「竹筒茶」、ハニ族の「焙烙茶」、ワ族の「焦がし茶」などである。雲南の茶文化の要素として他に「茶馬古道」があり、**第2章**で述べたように、かつてアジア大陸を茶の流通ネットワークで繋いでいた。

韓国の花開地域は、2017年に世界農業遺産に登録されたばかりだが、「チャクサル」と呼ばれる発酵茶が手作り茶として知られ、摘み残しの茶葉や7月や10月に収穫される品質の劣る茶葉を、農家や僧侶が発酵させたものである。伝統的茶農法のエコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムは、茶祭りや茶博物館で展開される。河東原生茶文化祭りとして知られる地域の祭りは、40万人以上の観光客が訪れ、斜面にある伝統的茶畑の美しい景観を楽しみ、様々な茶文化体験プログラムに参加する。プログラムには、茶摘み、伝統の茶作りや僧侶との茶会がある。

河東茶文化博物館には、伝統的茶栽培の方法や茶の道具が展示され、観光客に茶の儀式の学習や伝統茶の喫茶体験を提供している。エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムの連携を通じて、保存されてきた伝統的茶園を観光資源とすることで、地域の茶文化と茶産業の成長促進の基礎となっている。

エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムの連携は、2014年に世界農業遺産に登録された中国のジャスミン茶文化農法にも反映されている。国連食糧農業機関に提出された提案書には、この地域はジャスミン茶生態系保存生産区域として、栽培、生産、そして観光の世界水準のジャスミン茶に関連付けての促進が計画されている。ブランドの広報のために、福州市ジャスミン茶テーマパークの建設計画があり、産業ワークショップや喫茶体験や展覧会を開催する予定である。このプロジェクトに刺激されて、毎年観光振興を通じての茶市場の拡大が推進されていて、国際茶会議などが開催されている。古来の茶農園とジャスミン農園の保存と持続可能な発展のためのエコツーリズムであるという位置づけで、福州市では鼓山の茶農園と、帝封江の湿原のジャスミン農園でのエコツーリズムを、中国での農業レジャー観光のモデルにしようと努力している。福州市は既に2か所の観光施設を建設して、ジャスミン農園と茶農園の農業生態系を結びつけている。一つは、ジャスミン廻廊で、閔江、烏龍江、馬江、鰲江と大樟溪の川の流域である。もう一つは、生態系茶園で、羅源、永泰、連江、閩侯、晋安、閩清の山岳地帯にある。福州市は体験も取り入れていて、春の茶摘み祭りや秋のジャスミン花摘み祭りなどがある。

世界農業遺産でのエコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムを組み合わせた茶文化の商品化については、2013年に登録された静岡の茶草場農法もよい例である。茶畑の美しい景観と由緒ある史跡と共に、茶に関連したエコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムの観光体験ができる。たとえば、茶畑の美しい景色を背景にして大井川鉄道の蒸気機関車に乗るなど、とても人気がある。茶の空間の商品化という意味では、エコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムと直結するのは、美しい景観と動植物を観察できるレクレーションサイトであり、ハイキングやサイクリングで人気である。掛川市東山地区の粟ヶ岳までの茶のトレイルには、茶草場農法が残されていて、茶空間の遺産がエコツーリズムとして商品化されているベストプラクティスである。図3のルートマップにあるように、茶草場の地域で生産される東山緑茶は、エコツーリズムの体験と併せて宣伝されており、山の頂上までの登山路で絶滅危惧種の野生の花を見ることができ、頂上には日本の緑茶の父といえる栄西禅師の像が祀られている。また、茶草場地域は茶畑全体の70％に達しているが、ある茶生産会社は世界農業遺産を地域の茶製品のブランドとして利用している。生物多様性維持に寄与し、地域の発展に利益を還元するために、ペットボトルの茶のラベルは茶草場に咲いている希少種の花の写真である。また、茶草場農法で生産された緑茶であることは、パッケージのシールに示されていて、シールに描かれた茶葉のマークの数1個から3個でランク付けされ、生物多様性にどの程度寄与しているかを表している。マーク3個は茶園の50％以上で茶草場農法が実践されていることを示していて、マーク2個は茶園の25％～50％、マーク1個は茶園の5％～25％での実践を承認している。更に、静岡の世界農業遺産地域で生産された茶は、製品の宣伝のために、日本語と英語でデザインされたロゴマークを使うことができる（図4）。

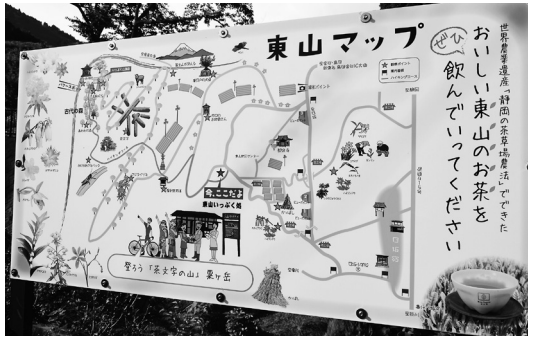

図3　掛川市東山の茶草場地域のエコツーリズムとヘリテージ・ツーリズム連携茶体験トレイルマップ

4　結論

サステナブル・ツーリズムの範疇で、重複関係と相互関係にあるエコツーリズムとヘリテージ・ツーリズムは、世界農業遺産での茶文化の商品化を創出し、地域を活性化している。茶の空間は学習体験と連携したエコツーリズムとして商品化され、茶の農業生態系の維持について知ることができ、茶の農法で保護されている動植物の観察ができる。ヘリテージ・ツーリズムの体験では、茶に関する人間の文化価値の維持が推奨され、茶製品に様々なテーマや形態を提供している。

（カウクルアムアン　アムナー）
（翻訳者：たけはな　けいこ）

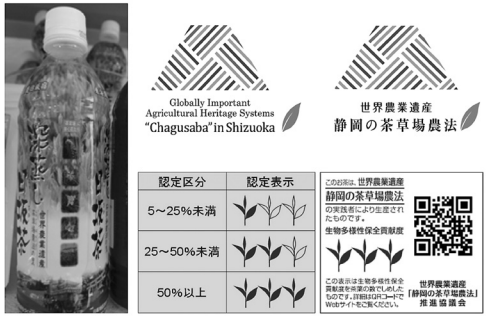

図4　世界農業遺産登録による茶製品のブランド化